地域経済の景気予報／ひと目でわかる地元の景況・活況データーベース

（株）エムダイヤ

分離と破砕が同時にできるリサイクル装置「エコセパレ」が海外でも好調の兆し

リサイクル業者にとって、処理する製品に含まれる素材の分離、選別は大きな課題。従来の破砕機だと一括処理はできるが、異なる素材が混合状態となっており、再資源化が困難に。かといって、手作業による前処理や分離装置を使うとコストがかさむといったことも。

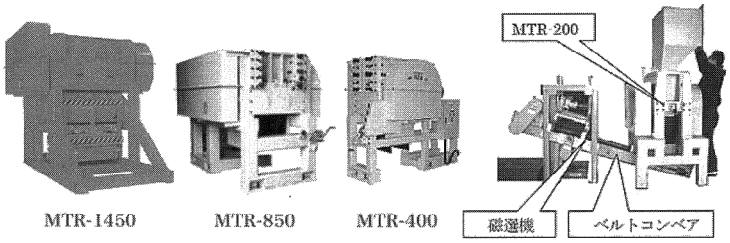
同社が開発したリサイクル装置「エコセパレ」は、雑多な廃棄物を破砕しても素材ごとに分離できるというスグレモノ。破砕と分離を一台で同時に行えるほか、廃タイヤ、光ファイバーなどさまざまな廃棄物を処理できるのも特徴だ。森弘吉社長は「省スペースで維持コストも大幅に削減でき、米国、中国、韓国でも特許を取得済み」と説明する。

リサイクルで地球環境に配慮したサービスの提供を目指す森社長

同社はもともと産業機械の修理を行う会社として森社長の父親（現会長）が創業。機械屋である会長が、廃タイヤの処理用としてこの技術を開発した。その特色はせん断するのではなく「剥離（はくり）」することにある。破砕工程で刃は鉄芯などの金属の表面を逃げるようにゴムをそぎ落とす。それをベルトコンベアで磁選機に送ると、ゴムと鉄が見事に分離される。

森社長はこのリサイクル装置の製造・販売をしたためにそれまで勤めていた工作機械メーカーを辞め、05年に起業したという。「現在、光ケーブルなどの電線メーカーとその工事会社、廃タイヤの問題をかかえた自動車部品関連メーカー、携帯電話などの電子基板関連メーカーにこのリサイクルシステムを売り込んでいる。すでに、大手電線メーカーのリサイクルプラントに納入するなど、数十台を販売した」という。

海外への展開も積極的で、2010年からは日本貿易振興機構などの支援を活用し、米・シカゴ、仏・リヨン、中国・西安の海外見本市に出展、その成果も着実に出はじめているそうだ。



エコセパレは現在3種類、シリーズで展開している

太鼓判押します!! 断然御薦

同社は高い技術力だけでなく、顧客の要望を的確に捉える豊かな発想力を持っており、顧客から絶大な信頼を寄せられています。リサイクル業界でつぎつぎと新製品を開発するのと同時に、広範なマーケットへの販路開拓にも力を入れ、最近では海外での事業展開も行っています。

（財）富山県新世紀産業機構・富山県中小企業支援センター・支援マネージャーグループ・マネージャー
蒲田龍性さん

社長のひとこと

QRコード対応のケータイ電話でご覧いただけます。

社長の自社採点

企画開発力	★★★☆☆
営業力	★★★☆☆
成長力	★★★★★
収益力	★★★☆☆
地域貢献力	★★★☆☆
人材力	★★★★☆
専門性	★★★★★
リサーチ力	★★★★☆
計画性	★★★☆☆
リスクマネジメント	★★★☆☆

会社概要

本社・富山県滑川市中村551・2／☎076・476・0062／創業1979年／設立2005年／資本金2000万円／従業員数11名　http://www.m-dia.com/

会計人の眼

かぎられたリソースを何に使うのかを見極めること

新潟市の主要産業は建設業と農業だが、建設業は経営悪化が甚だしく、農業は横ばいといった状況だ。震災時には物流関係が止まり、新潟を経由して被災地へ物資補給がなされたので、一部の運送業者や自動車などの修理メーカーが特需となったケースも。そのほか、中国など東南アジア諸国との取引が中心だったり、工場を持っていたりする企業は比較的堅調だった。しかしそれにしても、個人消費が著しく低下した年だったため、倒産する企業も多かった。

にもかかわらず、何とか例年の売上げを保ち、黒字を出している企業もある。それらの企業は一様に景気悪化や事業不振に対して冷静に分析し、素早く対応している。たとえば、リーマンショックでは自動車産業がその煽りを受けたが、その際に素早く工場の生産体制を抑え、生産調整を成功させたところは依然として堅調な売上げを保っている。

総需要が低下するなかで、新しい需要を開拓するためには、かぎられた経営資源をどこに傾けるのか、今後はそうした戦略的な選択と集中が求められる。

山岸　誠一
山岸公認会計士事務所
（新潟県新潟市）

お問い合せはコチラから